



8

Monthly Letter

Rotary International District 2770 Governor Gesshin
会員増強・新クラブ結成推進月間



CONTENTS

ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2770地区
ガバナー 梨本 松男

ロータリーの友地区代表委員

坂巻 邦夫

IT推進室推進委員長

木林 佑亮

部門委員長

羽田しげみ	内藤 考三	飯渕 昭二
伊藤 敦彦	横田 松博	宮澤 英修
佐藤 誠	早船 雅文	新井登志彰

委員長

田中 康之	坂寄 栄司	佐藤 恵
小暮 直正	西ヶ谷一志	平田 利雄
大木 保司	原田 晃博	浦野 一郎
柳寿 美恵	山本かなえ	杉本 浩一
早船 雅文	荒蒔 良和	橋本 洋子
菅原 卓	小山陽一郎	小林 達郎
小川 和義		

地区スタッフ

小山 寿行	伊藤 敦彦
地区副幹事・会計・地区大会会長	
地区大会実行委員長	

ガバナーメッセージ

国際ロータリー第 2770 地区 ガバナー

梨本 松男
(幸手 RC)



新年度がスタートしてひと月が経ちました。

我が幸手市に有る県立権現堂公園、桜と菜の花はとても綺麗で来場者も多いのですが、梅雨の紫陽花、秋の曼珠沙華そして、夏はひまわりが綺麗に咲いていて多くの来場者で賑わっています。是非ご覧ください。

◎ロータリー活動、スタートはいかがだったでしょうか？

例会運営、出席率、奉仕活動、会員増強維持、寄付などなど、残り 11 ヶ月間を会員皆さんで取り組み、有意義に楽しんで、クラブと地域に活力を生み出してください。

◎8月は会員増強、新クラブ結成推進月間です。

1905年2月23日、シカゴロータリークラブが誕生してから119年目に入りました。

その長きに渡り、140万人(ロータリー会員120万人、ローターアクト会員20万人)もの多くのメンバーがロータリー活動を継続している訳ですが、それには、人間を惹きつけるロータリーの大きな魅力、良さが有るからであると思います。

私たちは、自信をもって、そのロータリー活動の良さ、魅力を全面に出して、会員増強、維持活動に取り組みましょう。

◎会員増強については、終わりの無い永遠のテーマの一つです。

会長を先頭に、会員増強担当委員長をはじめ、会員の皆さんで、以下のとおりに増強退会防止に取り組んでください。

①入会候補者の情報を集めていますか？女性の候補者はいますか？

そして、

②その候補者へのアプローチは誰がどの様に行いますか？

具体的なお声掛けまで

もちろん、

③入会候補者アプローチのための資料は準備出来ていますか？

ロータリーの魅力を伝えるための資料です。

④新しい会員には、丁寧にロータリーの情報を提供し、そして、親睦を深めて、退会防止に務めください。

⑤出席率の低い会員にも、ロータリーの情報提供はもちろんですが、親睦活動、夜間例会、委員会活動(家庭集会、炉辺会議)、地区研修会などへの参加を促し、ロータリーの魅力を伝え、ご理解を得てください。

◎「衛星クラブ」はご存知でしょうか？

2013年の規定審議会で採択され、新ロータリークラブ結成に必要な会員数がない場合のオプションとして導入されました。既存のロータリークラブとは異なる環境で奉仕活動を行うチャンスを提供できます。衛星クラブの会員もスポンサークラブの会員となります。

新クラブ結成の一つの方法として、具体的取り組みを考えてみてはいかがでしょうか？

◎公式訪問が、先月7月14日浦和ロータリークラブから始まりました。次月号以降、各クラブ訪問のご報告が出来ると思います。

72クラブの皆様今後共よろしくお願ひ致します。

ロータリーの友地区代表委員・IT推進室推進委員長



ロータリーの友地区代表委員
坂巻 邦夫
(越谷 RC)

本年度、ロータリーの友地区代表委員として「ロータリーの友委員会」へ出向させていただきまず越谷ロータリクラブ坂巻邦夫です。

ロータリーの友は、ロータリアンにとって一番身近にあるロータリーの情報誌です。何気なく毎月手にし、横書き、縦書きにパラパラと眼を通し、気に入った（関心の有る）記事があると手を止めてその文章を読み、関心をしたり、その活動に興味を持ったりしているのではないのでしょうか。自分もそのような購読者の一人でした。昨年、二度の投稿をする機会に恵まれ、クラブの委員会メンバーと原稿下書き、写真の選定とクラブ会報委員長の協力や、「ロータリーの友委員会」のアドバイスをいただき、無事「友」に二度掲載することが出来ました。今まで投稿をする機会に恵まれなかった（投稿をしようとは思ってもよらなかった）。

この経験は、事業をした後に「これ良かったよね」

「これ他のロータリアンにも教えてあげたい」という情報が、自分では一切気が付きませんが、他のメンバーが行った事業など参加して良かった。楽しかった。ためになった。こんな経験が投稿に繋がるのだなと思いました。

皆さんも自分では気が付かないでいる、素晴らしい奉仕活動が客観的に見たら見つかるかも知れません。是非、各クラブ一度以上は投稿をしてみてください。

また、地区代表委員を拝命するまで自分も勉強不足で「友 WEB 版」の存在を知りませんでした。第一回目の「友委員会セミナー」を受け、デジタル版のすばらしさを改めて教えて頂きました。バックナンバーをすべてデジタル化し、RIも推奨するアーカイブを充実させました。1月に発刊70年を迎え、特集記事は興味深く購読したと思います。今年度は71年目を迎える「友」を有効に活用してください。例えば「ポリオ」というキーワードで過去70年間に掲載された記事を全て検索する事が可能になりました。

「友 WEB 版」で是非、自分の思い出の月のバックナンバーを探してみてください。

ガバナーの代理者として【「地区」と「友委員会」を繋ぐ】を目標に掲げ、活動していきたいと思っておりますので皆様よろしくお願いたします。



IT推進室推進委員長
木林 佑亮
(さいたま中央 RC)

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的な蔓延に伴い、クラブ活動の自粛、行動制限を背景に、デジタル技術を利用し、各クラブに新しい交流の機会を作る目的で発足した委員会です。

昨今では、世界的にもパンデミックによる影響も落ち着きを取り戻しつつあり、日本でも2023年5月には5類相当に引き下げられ、経済、社会活動も落ち着きを取り戻そうとしています。

また、マイナンバーカードを活用した社会保障の効率化、官僚、役所等事務方業務を効率化するため、全国民にIT利用を求める時代に突入しております。

ロータリークラブの活動においては、多数のクラブにZoomの活用方法が浸透し、IT技術を活用した活動が当たり前に行われはじめております。

当委員会では、さらなる情報技術（IT）の活用

をクラブならびに地区に提供すべく、細淵ガバナー年度より公式LINEチャンネルを開設しており、地区からの情報発信をプッシュ形式で、各ロータリアンに配信できる環境を整えはじめております。

また、各クラブ事務局と地区事務所との間でのやり取りについても、よりITを活用し、地区事務所の事務処理能力の向上を図ります。

上記のIT活用により、各会員に届きにくいRI、ガバナー、地区各部門の活動をより迅速に、より良い形でお届けできる仕組みを当委員会にて提供させていただきます。

IT委員会ではクラブIT化への助言と協力、地区事業IT化の積極的な推進とレベルアップ、ならびに地区全体のセキュリティの向上を図ってまいります。

各クラブの皆様には、従来FAXや電話での申し込みなどで完了していた手続きが、スマートフォン、PC等を活用することで、一時的なご負担をお願いする場面が多々発生してしまうかも知れませんが、そのお手間を上回る利便性を、なるべく早いタイミングにおいてご提供したいと考えておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

管理運営部門



管理運営部門委員長

羽田 しげみ

(大宮南 RC)

クラブ機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものすべてを充実させる部門です。

1. クラブ活性化委員会では、戦略行動計画の作成のアドバイスをし、行動計画策定状況の確認を、DEIの積極的導入を促し2770地区全クラブがロータリー賞をとれるよう挑戦するのをサポートします。

2. RLI 運営委員会は 地区 RLI 委員会の指示のもと RLI 3回 DL 研修1回を開催致します。

DL 研修	9月30日(土)
RLI part 1	10月22日(日)
part 2	12月16日(土)
part 3	1月27日(土)
3. 従来行ってきた My Rotary の 100% 登録、卓話バンク等は、クラブ活性化のきっかけと捉えて、引き続き実施するように促します。
4. 管理運営部門、会員増強維持部門、公共イメージ部門、IT 推進室推進委員会の4つを一体化し、DEI 推進委員会と位置づけ、出来る限り協力してクラブ活性化を推進します。

本年度の地区運営方針は「ロータリーを理解し、楽しく活動しよう」です。

理解し楽しく活動し 2770 地区全クラブ『ロータリー賞』に チャレンジしましょう！



クラブ活性化委員長

田中 康之

(大宮 RC)

3年超という永きに亘る新型コロナウイルス感染拡大によるコロナ禍が、漸く収束に向かっていきます。皆さんの顔からマスクが外れ、感染症法上インフルエンザなどと同様の第5類に移行されました。この間皆様の家庭、社会、そしてロータリー活動において甚大な影響があったのではないのでしょうか。ロータリー活動の中核である奉仕と親睦の機会が失われ、クラブ活動が停滞気味であるとの声を多く耳にすることがありました。

コロナ禍の収束を機に、血の通った奉仕活動、会員同士顔を合わせての楽しい親睦活動を通じて、地区内のクラブが活性化を図ることができるよう、当委員会がお手伝いします。具体的には以下に注力してまいります。

○クラブ活性化を目的に、当地区の全クラブがロー

タリー賞にチャレンジするよう、効果的なアドバイスをします。これに付随して My Rotary の 100%登録、ロータリークラブ・セントラルの活用方法など丁寧に説明します。

- 昨年度に引き続き今年度も IT 推進室推進委員会、公共イメージ部門、会員増強維持部門と連携を図りながら、DEIを推進します。様々な人たちの背景、年齢、人種、障害、宗教、信条、社会経済的立場、文化、性別など多様性に目を向け、全ての人たちに公平な社会を創造し、理解することがクラブに良い影響をもたらします。
- 各クラブに戦略計画（ビジョンを含む）の策定を推奨します。短・中・長期的な目標を定め、それらを念頭に活動することがクラブの活性化に繋がります。
- 当地区の卓話バンクの活用および登録を促進します。例会内容の充実にぜひ役立ててください。



RLI 運営委員長
坂寄 栄司
(春日部イブニング RC)

RLI (The Rotary Leadership Institute) は地区内のクラブ会員のために、リーダーシップ開発を行うプログラムです。講義ではなく、ディスカッションリーダー（ファシリテーター）により参加者に問いかけて、自ら考え、ロータリアンとしての成長とロータリー観の確立を目指すことを目標とするセミナーです。

内容は、パート1「ロータリアンとしての私」、パート2「私たちのクラブ」、パート3「私のロータリーの旅」という3回の構成のもと、ロータリー財団の仕組みや、会員増強、規定審議会についてなど、ロータリークラブに関するあらゆる分野について学ぶことができます。

今年度も、昨年度と同様に、クラブの会長エレクト、幹事エレクトなど幹部候補の方に積極的に参加していただきたいと思います。

RLIで学んだことをクラブに持ち帰っていただき、クラブの運営や研修に役立てていただければ幸いです。

今年度の日程の以下の通りです。

日時： パート1 10月22日（日）
パート2 12月16日（土）
パート3 1月27日（土）

場所： 大宮ソニックシティ

DL 研修は下記のとおりです。

日時： 9月30日（土）

場所： 大宮ソニックシティ

なお、RLI 受講者、DL の各クラブからの推薦は、7月中旬に提出していただく予定です。

意欲ある皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

公共イメージ部門



公共イメージ部門委員長
内藤 考三
(大宮 RC)

国際ロータリー第2770地区の皆さんこんにちは。今年度、公共イメージ部門委員長を拝命いたしました、大宮ロータリークラブの内藤考三と申します。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

公共イメージ委員会は、ロータリーを人びとに紹介し、ロータリーの活動に対する理解、評価、支援を促していくことを役割としています。地域社会の人びとにロータリーの活動とそのインパクトを理解してもらうには、効果的な公共イメージ戦略が重要となります。

各クラブにおかれましては、地域社会のニーズにフィットしたプロジェクトを実施ご準備頂いているかと存じます。その活動が地域でのロータリーの公共イメージ向上につながるのではないかと思います。そして、その活動を広く人々に認知していただくことでそのプロジェクトはより大きな効果を

もたらすことを期待できるのではないのでしょうか。

そのためには、地区及び各クラブのホームページ、各種ソーシャルメディア、パンフレット、動画配信、新聞やTVなどマスメディアとの連携などを計画の段階～実施～振り返りまで広く適切に活用していただくことで実現できると思います。

せっかく実施する素晴らしい活動ですので、是非広くアピールし、クラブ活性化、ひいては地域パートナーシップの拡大や会員増強につなげていただければと思います。

また、活動を行っていただき、公共イメージを向上するための1歩めとしてロータリーブランドのガイドラインに沿ったロゴの使用は非常に重要です。名刺、看板、資料、配信などに使用するロゴはガイドラインに適合したもので統一して頂くことで、強固なブランドを築くことができます。クラブのご協力を頂きながらロゴの正しい使用を推進して参ります。

公共イメージ部門では、クラブで実施された素晴らしいプロジェクトがより大きなインパクトを残せるよう DEI 推進委員会、IT 推進委員会と連携し、ロータリアンの皆様のご協力をいただきながらクラブ活性化のためのサポートをさせていただきます。



公共イメージ向上委員長
佐藤 恵
(浦和ダイヤモンド RC)

各クラブのプロジェクトを広くアピールし、クラブ活性化、ひいては地域パートナーシップの拡大や会員増強につなげていただくために、広く一般の方々に「ロータリークラブとその地域貢献活動」を認知して頂けますことを目指して、当委員会一同最善を尽くしてまいります。各クラブの素晴らしい地域貢献を地域社会の人びとにロータリーの活動とそのインパクトを理解していただくために、効果的な公共イメージ戦略を具体化すべく、以下の内容を推進してまいります。

- ①公式ロゴは一貫したロータリーブランドを強固たるものとして築く為、今一度各クラブで使用しているロータリーロゴ使用法の見直しを各クラブにお願いし、クラブ名を組み合わせたロゴ作成の周知徹底を図ります。
- ②各クラブの活動（親睦事業、奉仕活動等）を地区内で共有し、クラブ活性化にお役立ていただけます。

すよう、簡単に投稿出来るテンプレート活用の普及に努めてまいります。各クラブからの投稿をクラブダイジェストとして随時アップいたします。

- ③お手軽に配布物を作成できる支援ツールとして2022-23年度に作成した『公共イメージ向上パンフレット』を活用して、クラブの社会奉仕活動や新入会員勧誘の際にお配り頂けるよう、クラブ独自のパンフレット作成を普及してまいります。
- ④クラブの魅力伝えるプロモーション動画テンプレートを2023年9月にリリース予定で、クラブの公共イメージ向上、クラブの事業をより大きなインパクトをもたらすことにご活用頂きます。
- ⑤ロータリーの最新情報や地区・地区内クラブの活動の発信の場である RI2770 地区 SNS は、クラブ活性化のヒントにお役立ていただけますよう随時更新してまいります。そのためにも、地区会員の皆様に facebook ページ、YouTube チャンネル、LINE 公式アカウントへの登録をお願いを継続してまいります。

1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

会員増強維持部門



会員増強維持部門委員長
飯淵 昭二
(岩槻東 RC)

梨本年度会員増強維持部門、部門委員長を仰せつかりました。本年度の会員数値目標は2400人です。各クラブの設立環境、周辺の地域環境、構成メンバー状況など各クラブを取り巻く条件は多岐にわたっています。会員増強維持委員会として何が出来るのか、何をお手伝いしたらいいのか非常に難しい問題ですが、まずは情報の共有化を考えております。「各クラブの会員獲得成功事例」「入会した時の動機」など各クラブの情報を共有させていただきたいと思っております。しかしながら会員増強はあくまでクラブ単位での活動がメインです。いいえそれしかないといえます。クラブの会員増強維持委員の活動、ひいては会長のやる気次第だといえます。会長が「やる気スイッチ」を入れて会員増強に邁進していただければ会員の増加は望めません。そこで

お願いがあります。新規会員さんの勧誘と同時にどうかクラブ内の準備を進めていただきたいのです。新規会員が入会した時の準備、例えば新会員のお世話係（一人にさせない係）メンター制度など。また、ロータリーのこの教育システム（講師の選定）、カリキュラム、教材の準備などです。また、女性会員を迎えるにあたってのコンプライアンスの作成、周知徹底、ハラスメントに関する教育、話し合いも準備として必要です。新人が決まってからの準備開始では遅過ぎます。どうか勧誘と同時進行で進めてください。そして魅力あるクラブを作ってください。入会をお願いするのではなく入会したくなるクラブを作ることを目指していきましょう。最後に同好会活動を有意義に利用してください。地区会員増強維持部門主導の同好会はどのクラブの方もまた、新規会員候補の方の参加もできます。その中でロータリー活動を理解していただき親交を深めたいうえで入会にごぎつけてください。また、退会防止にもお役立てください、休みがちな会員さんを誘ってみてください。楽しみましょう、仲間を増やしましょう、価値ある有意義な人生を過ごしましょう。



会員増強維持委員長

小暮 直正

(越谷 RC)

会員増強維持はロータリーにとって永遠のテーマであり、地区内全てのクラブで、増強維持を重要課題の一つとして取り組まれていると思います。

会員増強維持の役割とは、(増強)ロータリーの魅力や素晴らしさを、共感できるふさわしい人に効率的に伝え仲間を増やすこと、(維持)ロータリーの意義を理解し、奉仕と親睦を愉しむ意識を醸成することにあると考えます。当然そのためには、ロータリーの知名度を向上させることが必要ですし、何よりも仲間を増やそうとする私達1人ひとりが「ロータリーとはどういうものか」をきちんと説明できなければなりません。

地区委員会として出来ることには限りがあります。それは、クラブそれぞれにクラブビジョンや地域性、会員の構成要素などが違うため、増強維持の方法もクラブの数だけあるからです。「地区」と

いう名のクラブはなく、あくまで会員増強維持のアクションを起こすのは、各クラブの皆様であり、クラブ活性化をサポートするために私達地区委員会が存在します。クラブ活性化の結果として、梨本ガバナーが設定された地区数値目標 2,400 名を達成できるよう、飯淵部門委員長を筆頭に委員会一同取り組んで参ります。

以上を踏まえ、次年度、地区委員会では下記2点を柱とし、増強維持のお手伝いをさせて頂きたいと考えております。

- ①クラブの垣根を超えた同好会の活用（会員増強維持の新たなツールとして）
- ②増強に成功しているクラブの実践事例・入会動機・有益なアイデアの共有

言うまでもなく、会員皆様お一人お一人の存在が会員増強維持の成功事例であり、会員の数だけ入会までのストーリーがあるはずで。そして、ロータリークラブに入会して、その魅力や意義を実感されているはずで。それらを共有し仲間を増やしましょう！

ご意見・ご要望などありましたら、些細なことでも地区会員増強維持委員会にお問い合わせください。できる限りのお手伝いをさせていただきます。よろしく願いいたします。

職業奉仕部門



職業奉仕部門委員長

伊藤 敦彦

(幸手 RC)

私は、国際ロータリー第 2770 地区 2023 ~ 2024 年度職業奉仕部門委員長を拝命いたしました伊藤でございます。

職業奉仕はなかなか理解が難しいと言われる方が多いとお聞きしますが、皆さんは如何でしょうか？

職業奉仕は奉仕活動の根幹と言われるように非常に大切な活動でもあり、また、皆さんにとって日々活躍されている仕事にも大きく係っている考え方とご理解いただけますでしょう。1905 年アメリカのシカゴで誕生いたしましたロータリークラブは、わずか 4 名のメンバーから始まり、118 年の時を経て現在に至ります。発足当初はお互いの相互扶助を目的に結成され、やがてお互いの仕事に繋がって行きました。ロータリーの仲間ということも

あり親睦と信頼の中で評判が評判を呼びその繋がりが全米へと広がって行きました。しかしながら、未熟な時代でもあった為、儲けの手段と考え利益のみを追求することが多く聞こえるようになってしまいやがて社会から批判の対象となってしまいました。

そこで、メンバーの 1 人が自分の“仕事を伸ばしたいのなら儲けを優先するのではなく、職業を通じて社会に奉仕しよう”と説いたのです。この考え方が職業奉仕の原型となり 1911 年に『沢山奉仕する人が、最も報われる』という標語に繋がって行きました。これが親睦、職業倫理、社会奉仕、国際奉仕、という形に繋がっていったのです。これこそが根幹と言われ、基板になる理由であります。

職業奉仕部門は、クラブやグループの活性化、また地区の活性化にもつながります様活動の輪を広げてまいりたいと思います。知合いを沢山広めてもらう為の時間や場所のご提供、会員の職業分類のデータを作成しお互いを知ってもらえるお手伝いができますよう活動してまいりたいと思いますので、どうぞご協力とご支援をお願い申し上げます。



職業奉仕委員長
西ヶ谷 一志
(さいたま樺 RC)

コロナが5類感染症に移行され、街にはコロナ前の喧噪が戻ってきました。皆さんのクラブの様子は如何ですか！私はコロナと共にロータリーになり、地区の職業奉仕委員会に3年間お世話になっています。クラブ活動がコロナによってままならない中で、地区の職業奉仕委員会に参加することになって、ロータリークラブとは何か、勉強する機会をいただき感謝しています。

ロータリーは「奉仕をする団体」と言われます。クラブ奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕この4つは、奉仕する対象が明確です。所属するクラブ、地域、国際的なプロジェクト、青少年です。ところが一つだけ異質な奉仕活動があります。それが職業奉仕です。職業奉仕は、他の4つと異なり、対象を決めていません。My

Rotary には、「職業奉仕とは、すべてのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てること」と記されています。職業奉仕は、一体誰が対象の奉仕でしょうか？

細淵 G 年度には、「職業奉仕とは何か」解りやすく解説しようと試みました。『職業を通じて、人々に奉仕することで、自らをさらなる高みに上げていくこと』と簡単な説明とし、卓話でそれを伝えてきました。そして本年度では、例会でももっとも身近に感じてもらいたいと考え、『職業奉仕のタペストリー』を準備しました。例会で常に掲示し、職業奉仕について考える機会を！持っていただきたいという思いを込めました。

職業奉仕とは、一体誰が対象の奉仕でしょうか？タペストリーでは、職業奉仕を実践することで、クラブも自らも成長していくことを絵にしています。そして、最も身近な職業奉仕の対象は、クラブの仲間そして自分自身だということを示唆しています。

例会では、大いに親睦を図り、仲間のことをよく知っていただきたい。そのエンジンが職業奉仕です。どうぞ宜しくお願いします。



社会奉仕部門



社会奉仕部門委員長

横田 松博

(浦和中 RC)

今年度、社会奉仕部門委員長を拝命しました浦和中ロータリークラブの横田松博と申します。どうぞ一年間よろしくお願い申し上げます。

一昨年に続き改めての社会奉仕部門委員長になります。この2年間はコロナ禍でなかなか思うような活動が出来ませんでした。今年度は制約など無しに地区2400人の皆様の為、お役に立てるよう委員会メンバー一同邁進する所存です。

具体的な活動は下記になりますが、地区活動方針である「地域に希望を、クラブに活力を生み出そう」の精神のもと、2770地区全クラブの応援団として活動します。なお本年度から地域社会奉仕委員会とブライダル委員会が一つになりましたので、委員会メンバーも更に心をひとつに活動を行いますのでご期待ください。

【地域社会奉仕】

地区内クラブ奉仕活動の支援

- ・各クラブへの奉仕事業アンケートの実施
- ・奉仕事業の地区内への紹介や参加協力案内

地区推奨奉仕事業の推進

- ・ピンクリボン運動（乳がん検診普及活動）
- ・腎アイバンク啓蒙活動及び登録活動
- ・ペットボトルキャップ回収事業の実施と検証
- ・「アイシティ eco プロジェクト」コンタクトレンズケース回収事業の実施と検証
- ・「子宮頸がん HPV ワクチン」啓蒙活動

募金活動

- ・国内災害発生時のクラブ宛ての募金活動と報告業務
- ・ウクライナ支援募金活動など国際的な募金活動全般

【ブライダル】

婚活イベントの実施

- ・12月 クリスマス婚活パーティーの開催
- ・5月 婚活バスツアーの開催「恋のぼりツアー」



地域社会奉仕・
ブライダル委員長

平田 利雄

(浦和東 RC)

今年度の地域社会奉仕委員会は、昨年度行われたグループ毎の共同事業をサポートし、より広域な活動、地域にインパクトを与える事業が展開できるよう情報提供を行って参ります。

また、それらのテーマとして、重点項目7つの分野の他、乳がん撲滅ピンクリボン運動+腎・アイバンク+情報の提供・ウクライナ支援募金や災害時の支援活動等、対応して参ります。

コロナ対応の変化により、地域の町興しとなるべき、疲弊した地域の祭りやイベントの復興、新たな街づくりの提案、実践奉仕事業ロータリーフェスタを通して、実行の情報提供等を進めて参ります。

ブライダル委員会は、昨年開催された3回の企

画イベントを精査し、新たにローターアクトとの共同企画、また、地域のニーズを起し参加者を増やす事による婚活イベント、クリスマス婚活・竜神大橋の鯉のぼり『恋上がり』BBQバスツアーを行い、ブライダル委員会の方向性を確認して参ります。

多岐に渡りますが、1年間宜しくお願い致します。

国際奉仕部門



国際奉仕部門委員長

宮澤 英修

(鴻巣 RC)

各クラブの皆様には国際奉仕活動に対しまして深いご理解、ご協力を頂き感謝申し上げます。2023～2024年度、国際奉仕部門委員長を務めさせていただきます宮澤英修と申します。

ここ数年コロナの影響を受け、思うような活動ができていないのが実情だったのではないのでしょうか。2023～2024年度に於きましてはコロナ前の活動内容に戻って行きたいと考えております。

ゴードン R. マッキナリー会長の言葉に『新型コロナウイルス流行の結果として、これまで以上に多くの人々が傷ついています。多くの人々が失われたり、社会的つながりを絶たれたりしています。最も傷ついている世代の一つが教育や対人スキルを身につける機会を妨げられた子供や若者です。そして世界の多くの地域では助けを求めています。真実か

ら目をそむける事はできません。』と言われました。

当 2770 地区内の各クラブの国際奉仕事業の実施状況は二分化されており毎年のように継続して実施しているクラブとまったく実施していないクラブとがあります。

是非、次年度は国際奉仕活動にチャレンジしてみたいかがでしょうか。2023～2024年度も色々な国際奉仕プログラムを用意する予定でございます。毎年、当 2770 地区より奉仕しているフィリピン 3800 地区からは既に 30 を超えるリクエストが来ております。その他ベトナムなどの案件を用意しております。是非、利用して頂き国際奉仕の素晴らしさを実感して頂ければと思います。

また自力で国際奉仕を実施しているクラブに於きましては、コロナ前の様な活発な奉仕活動を復活して頂ければと思います。

最後になりますが海外に姉妹クラブをお持ちのクラブに於きましては、コロナ前のお互いに顔を合わせての活発な交流を再開して頂きたいと思っております。

1年間よろしくお願いいたします。



国際奉仕委員長

大木 保司

(上尾 RC)

約3年間程コロナ禍で思うような国際支援が出来ませんでした。

今までは何らかの方法で資金を送金（これが難しい）して ZOOM で確認する事で終わってしまいました。しかし、今年からは動ける状態になりつつあると思います。RI 会長ゴードン R. マッキナリー氏の RI テーマは「世界に希望を生み出そう」です。まさに国際奉仕の出番ではないでしょうか。いきなり元に戻るとは思いませんが、その道筋はつけていきたいと思っております。

フィリピン支援が 30 数件、ベトナム支援が 2～3 件来ています。それらに加えてカンボジア支援、

ラオス支援、ミャンマー支援を模索中です。タイ支援も可能です。また、グローバル補助金を使用して医療関係の支援を計画しているクラブもあります。独自のルートで支援しているクラブはこれから活動しやすくなります。地区が紹介した支援や各クラブが単独でしている支援事例を表に纏めたいと思っております。ご協力お願い致します。

又、外国との姉妹クラブと合同での支援を考えたら如何でしょうか？

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類感染症に変更され、外国へ行くハードルが下がりました。この機会に姉妹クラブとの絆をさらに深めましょう！

「世界はあなたを待っている！」待っている人々の為に世界で良いことをしましょう。宜しく願い致します。



国際交流委員長

原田 晃博

(岩槻 RC)

皆様こんにちは。皆様は国際交流についてどのようなお考えをお持ちでしょうか。

国際協議会に於いてゴードン R. マッキナリー RI 会長から今年度のテーマ『世界に希望を生み出そう (Create Hope in the World)』が発表されました。

昨年からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻により世界情勢は一気に変化しました。緩和されつつあるとはいえコロナ禍の現在の状況を鑑みると、なかなか今までと同じようなスタイルで十分な交流活動を行うには難しい側面があることを皆さんも感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

国際交流委員会では、このような状況下にあっても、少しでも各クラブの皆様が国際交流活動に対してのご理解をいただき、より多くのクラブが

国際交流活動に参加していただけるようお手伝いをさせていただきます。海外に姉妹友好クラブを持たないクラブは当地区内にはまだまだあります。また、国際大会、日韓親善会議、日台親善会議等に参加したことのないロータリアンもたくさんいらっしゃいます。国際交流委員会としてはそういった方々にも少しでもお力になれるようお手伝いをさせていただきたいと考えております。

ウイズコロナ、コロナ以前に戻りつつある中、まだ例年通りの活動ができませんが、我々と共に少しでも国際交流活動にチャレンジしていただけたら幸いです。

海外との交流活動は決してハードルの高い活動ではございません。国際交流委員会としては皆様のクラブが少しでも世界へ目を向け『ロータリーの目的』第4項『奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。』を実践できますよう共に最善を尽くしていきたいと考えております。

皆様にとって素晴らしい年度となること、そして皆様一人ひとりが世界に希望を持ち続けることを願います。

青少年奉仕部門



青少年奉仕部門委員長

佐藤 誠

(大宮南 RC)

2010年に第5の奉仕部門となった青少年奉仕部門は13年の年月を重ねる中で、確実に進化し充実をしてきたと思います。

12歳から18歳の若者を対象年齢としたインターアクトクラブ（インターアクト委員会）、15歳から19歳世代の1年間の交換留学を通じて国際理解・親善など貴重な経験を得ることが出来る青少年交換プログラム（青少年交換委員会）。

更に18歳以上を対象にした世代のローターアクトクラブ（ローターアクト委員会）、それらの若者に対するロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA委員会）といったまさに未来を担う世代への切れ目ない奉仕プロジェクトやプログラムを青少年奉仕部門は実施して来ました。

2019年からはローターアクトクラブが国際ロータリーの一員となりました。

ロータリークラブとローターアクトクラブが共に協力し支え合う新しい方法を見つけ出していく事を、ゴードン R. マッキナリー 2023-2024 RI 会長は私たちロータリアンに求めています。

それを踏まえて今年度はあえてインターアクトとローターアクトを一つの委員会に統合しました。世代として『切れ目ない』プログラムでありながら高等学校のクラブ活動として活動しているインターアクトクラブに対し地域主体のローターアクトクラブは会員増強に苦慮している実態があります。様々なボランティア活動を経験したインターアクト生が卒業後引き続きローターアクトクラブの活動に参加できるような仕組みを構築し、ローターアクトクラブの活性化を図っていきたいと考えています。

そして青少年交換留学やRYLA研修という魅力的なコンテンツをインターアクトの対象年齢となる中学生からPRしてまいります。

今年度の青少年奉仕部門は各委員会が縦割りではなく全ての事業・プログラムにメンバー全員で取り組んでいただきます。

各ロータリークラブにおかれましてはこれらのプログラムにひとつでも取り組んでいただきクラブの活性化につなげていただければ幸いです。



青少年交換委員長

浦野 一郎

(戸田 RC)

ロータリー青少年交換プログラムは、約1年間の交換留学を通じて派遣学生および来日学生にとって貴重な経験とめざましい成長をもたらし、次世代の国際理解・国際親善・世界平和を推進できるプログラムです。第2770地区では長年、日本の34地区の中で最大の交換人数を誇ってきた歴史があり、これまで地区内クラブ関係者、ホストファミリー、歴代委員会、歴代ROTEX（青少年交換学友）など数多くの方々に支えられて事業が進められてきました。COVID-19の影響により2年間プログラムが中止されていましたが、2022 - 2023年度より海外派遣・来日学生受け入れを再開しており、今年度は8月に7名を海外に派遣するとともに7名の来日学生を受け入れます。

本年10月には10数名の派遣候補生を選抜する予定で、来年度の派遣に向けてオリエンテーションを実施していきます。オリエンテーションでは「ロータリーが青少年交換を行う目的は何か」を重視し、派遣候補生および来日学生にロータリーを理解していただくことに主眼をおきます。その中でロータリアン、ホストファミリー、ROTEXもロータリーの目的を正しく理解し、楽しく活動ができるよう、委員会として最大限努力していく所存です。

この青少年交換プログラム自体はとても小さな力しかありません。しかし一人ひとりの派遣生、来日学生および関係者がこのプログラムによって異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を少しずつ実現できると私たちは確信しています。そしてこの青少年交換プログラムは各クラブが高校生をスポンサーしてあげる以外に実施する方法がありません。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



RYLA 委員長

柳 寿美恵

(浦和北東 RC)

梨本ガバナー年度、RYLA 委員長を仰せつかりました、浦和北東ロータリークラブの柳 寿美恵と申します。

RYLA は、青少年のリーダーシップ養成研修、リーダーシップの理解と実践です。人間性を尊重し、深く探求することを目的とし、問題解決や伝達の重要性を強調しています。自信と自尊心を培い、地域社会での良き市民であり、世界市民として育つことを基本方針としています。

グローバル化が加速する中、地域で活躍できる若者を育てるだけでなく、彼らがグローバルに活躍できるリーダーシップを身につける事も重要になっています。

梨本ガバナー年度は、基本方針のもと、研修場所をグアムとし、グローバルな研修が出来るよう頑張らせていただきます。

各クラブから、多くの方が参加くださいますようお願い申し上げます。



インターアクト・
ローターアクト委員長
山本 かなえ
(大宮南 RC)

今年度からインターアクトとローターアクトがひとつの委員会として統合することになりました。インターアクトは12～18歳までの青少年、ローターアクトは18歳以上の若者が対象です。年代が続くこの2つのクラブが同じ委員会になることで、今まで以上に双方が交流し、そして共に活動しやすい場を、ロータリアンである私たちが作っていきたいと思っています。

また、2019年からはローターアクトクラブが国際ロータリーと肩を並べることになりました。今までのようにロータリークラブがローターアクトクラブを一方的に支えるのではなく、双方がお互いに協力し合い、お互いに支え合っている仕組みも作らなければなりません。

第2770地区には、まだ中学校を母体とするインターアクトクラブはありません。実質的に活動しているのは提唱された34のクラブのうち、23校、全てが高校のクラブです。人生で一番いい時期、と言っても過言ではない中学から高校にかけての大事な成長期にボランティアを学び、世界平和を考えられる環境に身を置くことは、その後の人生にどれだけ大きな意味をもつかわかりません。私たちロータリアンに与えられた使命は、出来るなら中学にもインターアクトクラブを提唱し、中学、高校と体験を積み、その体験からリーダーシップ能力を培い、ごく自然に、交流先のローターアクトクラブへと進んでいける青少年の支援ができるなら、大変理想的と言えるでしょう。

4年ぶりに再開した韓国第3750地区インターアクトとの交流も武器に、この1年間を委員会のメンバーと共に、理想的な形を実践できるよう尽力して参ります。

ロータリー財団部門



ロータリー財団部門委員長
早船 雅文
(川口 RC)

ロータリー財団は、1917年にアーチ・クラフの提唱により誕生しました。最初の寄付は、カンザスシティ RC からの26ドル50セントで、その後ロータリー創始者ポール・ハリス逝去後の130万ドルの追悼寄付を機に多額の寄付が寄せられるようになりました。

ロータリー財団は、財団への理解を深めていただくことで資金となる寄付を集める**資金推進委員会**、国際ロータリーの最優先事項であるポリオ撲滅のために活動しポリオ・プラス寄付をお願いする**ポリオ・プラス委員会**、地区財団活動資金(DDF)を管理して主にグローバル補助金を使ったプロジェクトのアドバイスと、専門職業人のグループを海外に派遣もしくは受け入れてスキルや知識を提供

するVTT(職業訓練チーム)を支援する**補助金・VTT委員会**、地区補助金の理解を深め申請の窓口となる**地区補助金運営委員会**、財団の補助金を使い、財団奨学生の募集、選抜、研修、派遣、受け入れクラブ及びカウンセラーの発掘、ロータリー平和フェローの学生とカウンセラーの支援を推進し、それらを終了し財団の学友となった方の管理を行う**財団奨学・平和フェロー・学友委員会**、財団の補助金に関して財務資金管理を行う**資金管理委員会**の6つの委員会で構成されています。

グローバル補助金は7つの重点分野を支援する持続可能かつ測定可能で、相手国のロータリークラブとの共同プロジェクトに活用され、最低3万ドル以上である事など地区補助金と比較すると条件が多くありますが、この補助金を使うことでさらに大規模なプロジェクトが行えます。この申請や手続きについては各クラブが行い、補助金・VTT委員会が支援します。

これらのプロジェクトの資金はロータリアンの皆様の寄付によって支えられています。皆様のご支援ご協力を節にお願いします。

Doing good in the world 世界で良い事をしよう!



ポリオ・プラス委員長

杉本 浩一

(浦和東 RC)

ポリオのない世界というビジョンをはじめて示したのがロータリークラブと言われております。これまで人類が撲滅した病気は1980年の天然痘のみ。次はポリオです。1985年国際ロータリー創始80周年の時に、全世界でポリオプラス・プログラムが設置されました。ポリオプラスのプラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核を指して同時に予防接種の実施をする運びにしたのが由来です。

35年間の懸命な活動によりポリオ野生株の発症数は99.9%減少しました。現在もポリオ常在する国は、アフガニスタンとパキスタンの2か国のみとなっており、ラストスパートを迎えております。しかしながら、寄付の数値目標以上に達しているのは、ロータリアン12人に1人、クラブは5クラ

ブに1クラブと言われております。そして、世間におきましてその認知度は高いとは言えないのではないのでしょうか。対内的にも、ポリオ根絶活動の理解を深めてもらい協力の輪を広げると共に、一般の方々にも知っていただく機会を作ることが大切だと考えます。

ポリオプラス委員会では、ロータリーの最優先事項である世界ポリオ根絶活動について広く理解を深めていただく為、お手伝いをします。具体的には、各クラブから卓話のお時間をいただく事で、新会員へ向けては元よりベテランの方には復習の機会にさせていただければと思います。併せて活動の原資となる寄付への協力の依頼を改めて行います。更には10月24日の世界ポリオデーに伴う催しの共催や協力をします。最新情報やアイデアの提供、マッチングのお手伝いなどもいたします。ポリオについてはEND POLIO NOW (<https://www.endpolio.org/ja>) のサイトをご覧ください。

2770地区内各クラブのポリオ根絶への取り組みが、あともうちょっと！と盛り上がるようにサポートをして参ります。



補助金・VTT委員長

早船 雅文

(川口 RC)

補助金・VTT委員会は、主に以下4つの役割を担う組織です。

- ①情報の提供（クラブに対し、「授与と受託の条件」を含む補助金に関する情報を提供する）
- ②補助金原資の配分
 - 1、DDF（地区財団活動資金）を配分、活動報告書が提出されるよう確認する。
 - 2、配分に関する地区方針が守られるようにする。
- ③グローバル補助金活用の奨励
- ④職業研修チーム（VTT/Vocational Training Team）支援に関する啓蒙

この内、「グローバル補助金」について、当該プロジェクトの種類は、「人道的プロジェクト」「職業研修」「奨学金」の3つ、その要件は以下の5つです。

- ①長期的で持続可能な影響をもたらす
- ②ロータリー7つの重点分野の、少なくとも1つに一致する活動を含む
- ③予算が30,000ドル以上である
- ④地元地域の人々が特定した重要なニーズに取り組む
- ⑤地元地域の人々が、ニーズに自力で取り組む力を向上させる

また「職業研修チーム」については、専門職業人のグループが海外に赴き、スキルや知識を学んだり、現地の職業人にスキルや知識を提供するもので、地区補助金、グローバル補助金を利用しての支援が可能であり、以下2つの可能性を挙げます。

- 1、メンバーが、自分の職業スキルや知識を活かして、奉仕に参加する機会を提供する。
- 2、効果的な実施によって、地域社会の人々が、自力で問題を解決し、生活を改善する力を身に付ける。



財団奨学・平和フェロー・
学友委員長

荒蒔 良和

(さいたま樺 RC)

2023～2024年度 財団奨学・平和フェロー・学友委員長を務めます、荒蒔です。

財団奨学・平和フェロー・学友委員会は、主に以下4つの役割を担う組織です。

- (1) 財団奨学生にかかわる、応募・選考・研修・派遣などについての管理
- (2) ロータリー平和センターの活動支援
- (3) ロータリー平和フェローの、日本での生活支援のためのカウンセラーの派遣
- (4) 学友との協力体制の堅持

新型コロナウイルス感染確認から3年…今なお終息したわけではありませんが、感染法上の位置づけが、今年5月から5類に引き下げられ、また「外出時はマスクを携帯して必要に応じて着用」などとする『新たな健康習慣』が公表されるなど、大きな節目

を迎えつつあります。

こうした状況下にあつて、奨学生の派遣や受入がコロナ禍前の状況に戻り始め、また、海外在住の日本人からの応募も出始める中で、あらためて『ロータリーの奨学生』としての応募・選考・研修について、議論する必要性を感じています。

また、平和は「人」から始まると考えるロータリーは、平和フェローシップ（奨学金）を通じて、世界平和と紛争予防の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築いていますが、2002年の創設以来、ロータリー平和センターは1,600人以上のフェローを輩出してきました。これらのフェローは現在、140カ国以上で活躍し、政府、NGO、教育、研究機関、平和維持および法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮しています。

こうした、センターの活動支援を継続すると共に、担い手となるフェローを支援するカウンセラー派遣にも、引き続き注力していきたいと考えます。

あらためまして、地区ロータリアンの皆様からの、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。1年間、よろしくお願い申し上げます。



地区補助金運営委員長

橋本 洋子

(大宮南 RC)

ロータリー財団は、アーチ・クラフ RI 会長の提唱により1917年に誕生し、今年で106年目になります。

Doing good in the world これこそが財団の真髄であります。世界で良いことをするには、財源が必要です。そのため毎年財団では、地区の数値目標を示し各クラブに寄付をお願いしています。

3年前の数値が今年度の補助金額に反映されています。

地区目標に達したクラブは50クラブ、未達成クラブは24クラブありました。2770地区12グループある中で所属の全クラブが達成していたのは、第3グループのみでした。

寄付に対する会員の意欲を高める必要があります。その為には寄付を財源とする地区補助金（通常

枠・大口枠）の意義と内容を伝え地域や海外における補助金プロジェクトを支援し、クラブの活性化をはかりたいと思います。

通常枠は全クラブの95%以上申請がありました。大口枠は昨年が8クラブ、今年は16クラブの申請のため、まだまだハードルが高いようです。

今後は大口枠に参加していないクラブでも大口プレゼンを希望者は見ることができるようになるなどして、大口枠のハードルを少しでも下げることにより、今まで参加していないクラブの参加を推進する必要性を感じました。

希望者が多く会場に入れない場合は、ズームとリアルハイブリッドを視野に入れるのも1つのやり方だと思います。

地区補助金委員会は、地区補助金の申請の支援だけでなく、最終報告書作成にかかる支援も行います。

私は、今年度地区数値目標達成クラブが1つでも多くなるように、ロータリー財団についての情報（財団プログラム）の発信を積極的に行っていきたいと思いますので、ご指導ご協力のほど切にお願い申し上げます。



資金推進委員長

菅原 卓
(浦和東 RC)

2023-24 年度財団部門資金推進委員会の委員長をおおせつかりました菅原卓です。

資金推進委員会の役割は、財団プログラムを確実にを行うための資金である年次寄付及び恒久基金を中心とした寄付を下記表の通り皆様に懇請することが主な目的ですが、さまざまな寄付形式についてロータリアンに情報を提供しクラブを支援する委員会です。

皆様と共に情報を共有し、更なるご理解をいただける財団を目指して活動してまいりたいと思います。又、ロータリーカードの加入及び利用の促進に

も努めてまいります。一年間よろしくお願ひします。

1. 年次寄付

年次寄付は、ロータリー財団の補助金とプログラムの主な資金源です。

☆年次寄付目標

年次寄付	200 ドル
ポリオ・プラス寄付	50 ドル
会員一人当たり合計	250 ドル

2. 恒久基金寄付

恒久基金寄付は、基金を通じて将来のロータリー財団プログラムを確保するためのものです。

☆恒久基金寄付目標（一クラブ当たり）

会員 50 名未満のクラブ	ベネファクター 1 名
会員 50 名以上のクラブ	ベネファクター 2 名



資金管理委員長

小山 陽一郎
(浦和 RC)

資金管理委員会は、補助金がきちんと使われるように管理することを目的に努めてまいります。

米山記念奨学部門



米山記念奨学部門委員長

新井 登志彰
(上尾西 RC)

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。ロータリー米山奨学生は、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます（米山記念奨学会、HP より）。

当地区の米山記念奨学部門は、「米山記念奨学増進委員会」と「米山記念奨学学友選考委員会」、委員数 15 名で運営しています。増進委員会は主に奨学生の卓話を通じて地区内のクラブと学生との交

流の機会を作る事で米山記念奨学事業をより身近に感じて頂く事、学友選考委員会は毎年募集する奨学生を選考する為の準備や面接試験の設営等が主な役割となっています。（両委員会とも地区内で寄付の増進という目的を持って活動しています。）

2023 学年度（4 月より）の奨学生は 36 名（継続奨学生が 14 名、新たな奨学生が 22 名）となっており、地区内のクラブの約半数が世話クラブとなって奨学生を受入れて頂いております。米山記念奨学事業についての認識と理解を深めて頂く為には実際に奨学生と身近に接し、お互いを理解し合うことが重要であり、また何よりも近道でもあります。

米山記念奨学事業の特徴でもある世話クラブ、カウンセラー制度は奨学生だけではなくクラブにとっても良い影響をもたらすクラブの活性化にも貢献しているという声も多く頂いております。今年度もより多くの奨学生を採用し、世話クラブとなる機会を増やすために寄付の増進に努めてまいります。



米山記念奨学増進委員長

小林 達郎

(幸手中央 RC)

この度、米山記念奨学増進委員長を仰せつかりました小林達郎と申します。所属は、幸手中央 RC です。一年間よろしくお願い致します。

ロータリー米山記念事業とは、全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業です。その目的は、将来日本と母国との架け橋となる人材を育成し、ロータリーが掲げる国際平和を推進することです。

当委員会の役割は、主として、①奨学金の寄付額の増進を図るための活動を行うこと。②米山奨学生のクラブ卓話の実施。の二つです。米山奨学生の受け入れ人数は、各地区の個人平均寄付額と寄付総額の全国比が基準となっており、より多くの留学生を

当地区に割り当てられるようにし、また、世話クラブの希望を叶えるよう努めます。

ロータリアンの皆様には、皆様の寄付のおかげで、留学生は勉学に専念できるということ知って頂き、そのために、奨学生の各クラブへの卓話、セミナー、感謝の集いなどを通じて、この事業への理解を深めるよう活動を行います。また、米山事業を通じて、梨本ガバナーの地区運営方針である、クラブに活力を生み出せるよう努めます。

各クラブの皆様には、この会の趣旨を理解され、寄付額の地区目標が達成されるようご協力をお願いします。なお、米山記念奨学会への寄付は、普通寄付、特別寄付とも寄付金控除の対象となり、また、法人寄付も一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で損金算入することができますので、こちらのほうもご検討の程よろしくお願い致します。



米山記念奨学学友選考委員長

小川 和義

(鴻巣 RC)

みなさんこんにちは、米山記念奨学学友選考委員長を務めさせていただきます、小川和義と申しますどうぞよろしくお願い致します。私が初めて本部門に出向したのがコロナ禍に突入したばかりの事でした、当時の工藤部門委員長が大変なご苦勞をされながら、オンライン会議・オフライン会議と運営されていたのをよく覚えております。そして、藤嶋部門委員長が引き継ぎ米山記念奨学事業への熱い想いや、奨学生への並々ならぬ愛情で運営されていたのを傍らでお手伝いさせて頂き米山記念奨学事業への思いが強くなりました。そして、島村部門委員長の計画的で緻密な運営で事業を正常化に向けてご苦勞されているのを見させて頂き、コロナ禍からの脱却への道筋を見据えることが出来ました。

米山記念奨学事業は、将来母国と日本との「懸け

橋」となって国際社会で活躍する人材を育て世界平和に貢献することです。米山記念奨学学友選考委員長として出来る範囲で貢献していきたいと考えております。多くの先輩諸兄皆様のご協力・ご助言を頂けますようお願い致します。

担当いたします、米山記念奨学学友選考委員会には2つの役割があります。まず1つ目は奨学生の選考です。優秀な学生を選考し多くの日本との「架け橋」を育てるためには、まずは奨学生を推薦していただく大学の指導教官や担当者の皆様には、米山奨学事業に対し深い理解を頂き優秀な人材を推薦して頂けるよう働きかけて、より多くの学生にエントリーして頂き、その中からより優秀で熱意のある学生の選考を行ってまいります。2つ目は学友主催の事業や合同奉仕事業を開催することです。例年行われている学友と学生の交流を図る活動をより魅力的なものとするべく学友会と連携していきます。

奨学生の受け入れクラブ、特にカウンセラーの皆様にはご負担をおかけいたしますが奨学生が卒業する日まで。いえ、卒業してからも奨学生とのより良い関係の構築にご尽力賜れたらと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

地区スタッフ



地区幹事

小山 寿行

(幸手 RC)

親愛なる国際ロータリー第 2770 地区の皆様こんにちは。

梨本ガバナーのご指名により地区幹事を務めさせていただくこととなりました幸手ロータリークラブ所属の小山寿行です。

2002年10月30日に幸手ロータリークラブに入会した事で、私のロータリーライフはスタートしました。入会日の事は今でもはっきりと覚えております。その日はガバナー公式訪問日で関口ガバナー(当時)にロータリーバッヂを着けて頂きました。この日は、聞いた事の無い話が次々と展開していく様をただ茫然と見ておりました。入会時点の私は、ロータリーの事を何も知らず、笑い話のようですがロータリークラブという団体は道路脇や駅のロータリー、観光地等に看板を設置する団体だと思っておりました。「面倒なことは何も無いので気軽に入

会してくれば良い。判子と入会金の10万円持ってきてね。」と優しく誘われて断り切れずに入会したのですが、いざ入会してみると「ロータリーには、ハイとYESしかないから。」と厳しく指導され、地区役員出向、クラブ幹事、クラブ会長など言われるままに引き受ける事となりました。諸先輩方の厳しいご指導を恨めしく思ったこともあります。しかし、クラブの役職や国際奉仕部門・管理運営部門の地区出向を経験させていただいた事は貴重な経験となり、今では当時の厳しいご指導の数々に本当に感謝しております。また、ロータリー活動を通じて国内外多くのロータリアンと知り合えた事は私にとってかけがえのない財産となりました。

この度、地区幹事のご指名があった時にも例のごとく「ハイとYES」からお返事を選ばなければなりませんので二つ返事でお引き受けいたしました。分不相応な役目をお引き受けしてしまったと当初は不安と後悔の念もありましたが、貴重な経験をさせていただいたロータリークラブへのご奉公のつもりで粉骨砕身頑張る所存です。梨本ガバナーの指揮の下、地区副幹事の皆と力を合わせて頑張っております。どうぞ一年間よろしく願いいたします。



地区会計

伊藤 敦彦

(幸手 RC)

国際ロータリー第 2770 地区の皆様、日頃より地区事業に付きましてご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、2023～2024年度収支予算額は、前年度同様に会員目標総数を2400名とし現在2310名60,600千円を計上いたしました。

予算内容につきましては、地区活動費及び地区事務所運営費とも前年度同様減額したままご対応したいと思います。

また、梨本ガバナーの意向により会計の管理を外部管理法を導入して用途等について厳正に管理するようにいたしました。

各クラブ会長の皆様におかれましては、地区分担金・一人当たり年間24,000円のご負担を本年も期限内に納入をお願いいたします。

また、各部門、各委員会の活動費につきましては会員の皆様よりお預かりしております会費で賄っておりますので予算内で活動して頂きます様お願いいたします。

地区幹事・地区会計・副幹事・地区大会委員長/実行委員長/幹事

小山 寿行	幸手	地区幹事		
伊藤 敦彦	幸手	地区会計	地区大会会計	
◎柳沼 憲一	幸手	○公共イメージ部門	公式訪問	筆頭副幹事
紙本 瑞基	幸手	○職業奉仕部門	○公式訪問	奉仕 PJ 全般
飯野 浩一	蓮田	○ロータリー財団部門	公式訪問	
小林 健男	蓮田	○青少年奉仕部門	公式訪問	
夢川 善裕	久喜	○国際奉仕部門	公式訪問	
天野 正幸	久喜	○社会奉仕部門	公式訪問	
中田 盛夫	幸手中央	○会員増強維持部門	公式訪問	
八木 泰典	幸手中央	○管理運営部門	公式訪問	
臼井 俊英	春日部南	○米山記念奨学部門	公式訪問	
山本 太輔	幸手	米山記念奨学部門	公式訪問	
青木 智弘	幸手	青少年奉仕部門	公式訪問	
小松原孔明	幸手	管理運営部門	公式訪問	
渡辺 光浩	幸手	ロータリー財団部門	公式訪問	
佐伯 昌則	幸手		公式訪問	
三牧 信吾	幸手	ロータリー財団部門	公式訪問	
中村 康宏	幸手	職業奉仕部門	公式訪問	
増山 将	幸手	会員増強維持部門	公式訪問	
山口 寿通	幸手	○ガバナー月信		
深作 昭美	幸手	ガバナー月信		
関 裕	幸手	ガバナー月信		
網谷 徹己	川口	全 般		次年度地区幹事
高浜 彰男	幸手	地区大会委員長		
宮澤 実	幸手	地区大会実行委員長		
渡辺 光浩	幸手	地区大会幹事		

ガバナー月信担当より

ガバナー月信9月号より地区事業の予定や報告、地区より各クラブの皆様への情報を掲載する予定です。またクラブの皆様から地区、地区内のクラブへの情報がありましたら、ガバナー事務所にご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

訂 正

7月号「2023-24年度 公式訪問日程表」に誤りがありました。

8月22日 埼玉シティ → さいたまシティ

大変失礼いたしました。お詫びして訂正いたします。

2023 - 24 年度 公式訪問日程表

曜日		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
火			1	浦和北東									
水			2	三郷ウエズデー 八潮イブニング					1				
木			3	越谷東					2				
金			4		1				3	文化の日		1	
土	1		5		2	川口モーニング			4			2	
日	2		6		3		1		5			3	
月	3		7	戸田 川口中央	4	大宮西	2		6			4	
火	4		8	川口シティ鳩ヶ谷 川口北東	5	川口西 幸手中央	3	鴻巣	7	八潮 松伏		5	
水	5		9	鴻巣水曜	6		4	大宮東 吉川	8			6	上尾西
木	6		10	久喜 桶川イブニング	7	浦和東 八潮みらい	5	上尾	9	川口北		7	
金	7		11	山の日	8		6	上尾北	10			8	
土	8		12		9		7		11	地区大会		9	
日	9		13		10		8		12	地区大会		10	
月	10		14		11	浦和南	9	スポーツの日	13			11	
火	11		15		12	三郷 大宮中央	10		14	岩槻東		12	
水	12		16		13	川口/鳩ヶ谷武南	11	越谷北	15	蓮田		13	幸手
木	13		17	大宮南 浦和中	14	川口むさし野 草加中央	12	杉戸	16	さいたま中央		14	
金	14	浦和	18		15		13		17			15	
土	15		19		16	さいたま大空	14		18			16	
日	16		20		17		15		19			17	
月	17	海の日	21	さいたま新都心 大宮シティ	18	敬老の日	16		20			18	
火	18	蕨	22	さいたまシティ さいたま樺	19	大宮北	17	大宮北東	21			19	
水	19	浦和北	23	浦和ダイヤモンド	20		18	大宮	22			20	
木	20	春日部西 北本	24	鳩ヶ谷	21	川口 春日部イブニング	19	吉川中央 草加シティ	23	勤労感謝の日		21	
金	21		25		22		20		24			22	
土	22		26		23	秋分の日	21		25			23	
日	23		27		24		22		26			24	
月	24		28		25		23		27			25	
火	25	越谷	29	川口東	26	春日部 草加松原	24	越谷中 三郷中央	28			26	
水	26	春日部南	30	川口南	27	桶川	25		29			27	
木	27	戸田西 戸田イブニング	31	越谷南	28		26	岩槻	30			28	
金	28				29		27					29	
土	29				30		28					30	
日	30						29					31	
月	31						30						
火							31						

* 上段：昼点鐘 下段：夜点鐘

※予定は変更になる可能性があります。



国際ロータリー第2770地区事務所

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂1-2-1-116 エイベックスタワー東館1階

TEL : 048-827-0022 FAX : 048-827-0011 E-mail : ri2770@ri2770.com URL : http://www.ri2770.com